オーディオ実験室収載

スピーカーアキュライザーの導入(3)
－CD 再生－

１．始めに

前報(2)に引き続き、スピーカーアキュライザーSPA-7 の試聴を実施します。

２．スピーカーアキュライザーSPA-7 の試聴計画

スピーカーアキュライザーSPA-7 の設定条件は前報(2)に述べたとおりとします。

試聴する CD は次のとおりで、EMT981 による再生とします。使用する CD は、すべて演奏会で聴いてきたものを選び、演奏会の印象の再現性を確認することとします。

Evidence EVCD015

ベートーヴェン Sonata for cello and piano No. 1 他

フランソワ＝フレデリック・ギィ（ピアノ）

harmonia mundi　KKC-5976

モーツァルト他　ピアノと管楽器のための五重奏曲 変ホ長調 K.452 他

アンサンブル･ディアーロギ

S&R AVCL-25005

バッハ他　あなたがそばにいたら他

森麻季（ソプラノ）／山岸茂人（ピアノ）

Hyperion　CDA67993

ウジェーヌ・イザイ 無伴奏ヴァイオリンソナタ 1 番～6 番

アリーナ・イブラギモヴァ(ヴァイオリン)

SONY　SICC 40079

ベートーヴェン ピアノソナタ 8 番ハ短調「悲愴」他

ヴァレリー・アファナシエフ(ピアノ)

SONY　SICC 1072

ワーグナー管弦楽集

マリス・ヤンソンス指揮バイエルン放送交響楽団

JARO Medien GmbH　JARO 4310-2

ブルガリア伝統曲

アンジェリーテ

Hall of Holes RH-104

Antique Musical Box Best Selection Volume.3

３．スピーカーアキュライザーSPA-7 の試聴結果

CD の試聴のポイントは、演奏会で求めてきた CD から演奏会の印象が再現できるかどうかですが、音質面では、弦のボウイングやピアノの打鍵の様子、古楽器の質感の表現、オーケストラのダイナミズム、歌唱の微妙な表現、音や声の協和と不協和の忠実度などです。

ベートーヴェンのチェロソナタは、4 年前に小ホールで聴いています。チェロの豪快なボウイング、ピアノの打鍵の鋭さは、近接録音のせいか、残響の大きい演奏会の印象を超えています。室内楽でありながら、ベートーヴェンらしい壮大な曲想が再現されています。

モーツアルトのピアノと管楽器のための五重奏曲は、4 年前にフォルテピアノを中心とした古楽器の木管アンサンブルで、小ホールで聴いています。近代楽器ではよく聴く機会がありますが、古楽アンサンブルでどういった印象になるかがポイントです。アンサンブルの各パート、特にフォルテピアノとナチュラルホルンの質感が演奏会の演奏をよく伝えています。フォルテピアノの打鍵の表現や木管の協和も聴きどころです。

イザイの無伴奏ヴァイオリンソナタは、この中で 1 曲だけ、昨年 9 月に聴いています。演奏会で聴いた 3 番と 4 番を聴きました。イブラギモアはカルテットで 2 度、そしてソロで 1 度の演奏の参加ですが、弱音からアグレッシブな強奏までのダイナミズムが身上です。この CD でもそういった演奏が遺憾なく発揮され、高音から低音まで、また重奏までのニュアンスが再現されています。

ベートーヴェンのピアノソナタは演奏会と違った曲ですが、昨年 12 月にペダルの操作などがよく見える位置で聴いていますので、演奏技法を聴くということで選択します。悲愴を聴きましたが、せかせかと先を急ぐ演奏が多いなかで、全体としてゆっくり目ながら、緩急の差が大きく、余韻をひっぱるところと音が消えて CD の回転が止まったかなと思うような静寂感の間の取り方などの演奏であることが分ります。音としてはスタンウェイの煌びやかな高音から、暴力的と言えるような重低音の一撃までが再現されています。

森麻季は、伴奏の山岸茂人とともに 2020 年コロナパンデミックの直前に地元のホールで聴いていますが、これまでと違って表現のニュアンスや声の張りが違いますし、ピアノの響きも豊かになっています。ソプラノは、透明感を維持しながら、歌唱の力強さが発揮されるべきですが、今回は生の声に近い力強さを感じました。収録と演奏会とはホールが違いますが、CD でも生々しさが伺えます。

ヤンソンスのワーグナーは、タンホイザー序曲とワルキューレの騎行を聴きました。かなり以前に最前列で聴いて迫力に圧倒されましたが、ヤンソンスが指揮台の上で飛び上がって演奏してことを思い出す迫力が出てきました。タンホイザー序曲は耽美的な弦楽合奏からうねりのような終盤まで息を継がせぬところがあります

し、ワルキューレの騎行は前報(2)のショルティ盤に水をあけられていたところを詰めてきて、コントラバスの躍動などはアナログにはない魅力です。
アンジェリーテのブルガリア伝統曲は、ブルガリアンポリフォニーのアカペラの合唱ですが、バロックの協和を身上とするポリフォニーと違う、いくつかのパートに分かれた不協和の多重の合唱です。音が濁らず、不協和の歌唱が分かれて聴こえるかどうかがポイントです。5 年前の経験ですが、演奏会の印象を思い出させるような、土のにおいのする力強く浸透力があり、息継ぎの音まで入った、バグパイプのような特有の持続音の歌唱が再現されました。ノーベル賞授賞式のレセプションで演奏した実力が発揮されたと感じています。
Antique Musical Box Best Selection Volume.3 は、神戸市の六甲山にあるオルゴール博物館の展示品からの録音です。シリンダーオルゴール、ディスクオルゴール、自動ピアノ、自動演奏オルガン、自動演奏バンジョーなどから収録されています。訪問したのはずっと以前ですが、機械の自動演奏とは思えない、音量と生々しさが味わえます。
全体を通して言えることは、アナログより特性上はダイナミックレンジの大きいはずの CD ですが、何となく頭打ちのような印象だったことが、そこから束縛が外れたようなダイナミズムが感じられるようになったことです。

４．まとめ

演奏会で聴いてきた演奏の CD を選んで試聴しましたが、従来より、演奏会の印象に近づいたことは間違いありません。

以上